

Vol.8
2026年
10月発行

ふるさとに感謝 美濃加茂へ
マッキーの 県政報告

3年前に、岐阜県議会議員として、美濃加茂選挙区の皆様から県政へ背中を押していただきましたマッキーこと、「牧田ひでのり」です。
この紙面による8回目（Vol.8）の県政報告をさせていただきます。
毎回申し上げておりますが、私は、未来を生きる各世代に向けて、現在よりも暮しやすい環境を整備すること、そのために経済・産業振興・防災・社会福祉・教育などの拡充に向けた活動に、積極的に取組んでまいります。
そこで、私が生まれ育った「ふるさとに感謝　美濃加茂へ」という気持ちを秘めて、以下の「マッキーからの美濃加茂へ3つの恩返し」に取組んでおります。

岐阜県議会議員 牧田ひでのり

マッキーからの美濃加茂へ 3つの恩返し

恩返し1 地域の「元気」づくり
地域経済の活性化と地場産業の振興と育成

恩返し2 地域の「安全」づくり
大規模に備えた事前防災対策の推進と災害に強いインフラ整備

恩返し3 地域の「安心」づくり
安心を支える地域づくりのため医療、福祉、介護、子育て支援の充実



マッキーの質問が県を動かした！
来春の県議選、電子投票へ

県「希望する市町村が実施できるよう、条例案の上程へ速やかに準備」



出典：広報みのかも 2026年9月10日号 表紙

恩返し1 私からの質問①

県議選でも導入できる環境を

美濃加茂市では、本年10月の市議会議員選挙で電子投票が実施されます。投票の正確性や開票事務の効率化、選挙事務を担う人材の不足という課題を踏まえ、来春の県議会議員選挙でも電子投票を実施できるよう、県条例を整備すべきではありませんか。

県選挙管理委員会の答弁

メリットはリスクを大幅に上回る

電子投票には、判読困難な記載による無効票がなくなること、デジタル集計により開票時間・人員を削減でき、集計誤りもなくせる利点があります。一方、全国的に実施例が少ないことはリスクですが、国は過去の事例を検証し技術基準を改定しています。メリットはリスクを大幅に上回り、実施する意義は十分にあります。
今後　来春の県議選で、希望する市町村が電子投票を実施できる環境を整えるため、県条例案の上程に向け速やかに準備します。実施市町村には、リスクを最小化しメリットを最大化する運用を求めます。

23年前の教訓を、次の一歩へ

2003年・可児市	全国初のクライアント・サーバ方式に挑戦。しかし機器障害などを巡り選挙無効が確定し、再選挙となりました。
2026年・美濃加茂市	藤井浩人市長のもと、新しい仕組みで電子投票を実施。過去の教訓を技術と運用に生かす挑戦をし、無事に執行されました。
2027年・県議選へ	私の質問に県が前向きな答弁。県政レベルで電子投票を進める端緒が開かれ、関係条例が可決されました。

マッキーの主張

「過去の失敗を封印するのではなく、教訓として次の挑戦に生かす。誰もが投票しやすく、正確で迅速な選挙へ。美濃加茂から岐阜県の新しい一歩を始めます」



一般質問　県政の三つの課題を質す

恩返し2 多文化共生社会



私からの質問②

県内の外国人住民は8万人を超えました。日本語学習や相談支援の現状、課題、今後の方向性を問いました。

県の答弁

市町村の日本語教室立上げ支援、多言語相談、人材育成を進めています。一方、学習機会の不足、ニーズの多様化、支援内容の高度化、指導者不足が課題です。外国人住民と支援者への実態調査を行い、重点施策を見極めます。日本語学習支援は引き続き最重要です。

恩返し3 選ばれる県立高校



私からの質問③

生徒・保護者から選ばれ、地域を支える県立高校をどうつくるか問いました。



県教育委員会の答弁

特色ある専門学科の強みを生かし、拠点校の成果や施設・設備を他校へ広げます。地域や企業の課題を題材に、AI・デジタル技術を使う実践的な学びと成果発表を充実させ、各校が地域から信頼され選ばれる学校を目指します。

恩返し3 名鉄広見線の存続



私からの質問④

新可児―御嵩間の廃線が高校生の通学と進路選択に与える影響を問いました。



県教育委員会の答弁

利用割合は八百津高校約2割、東濃実業高校約3割、東濃高校約8割。東濃高校は外国につながる生徒が約7割を占め、日本語指導の研究拠点でもあります。現生徒の卒業までは運行が協議されていますが、中学生が安心して進路を選べるよう、代替手段を含む将来の通学見通しを明確にする必要があります。